

絆

kizuna

石川県立羽咋高等学校 関東同窓会会報

第12号

2017/6



平成28年度 総会・公演会・懇親会

「人生謳歌」の同窓会に！

関東同窓会 会長 本多 群司



羽咋・中央(高16)

三高所からの見解…社会的・会社などの地位や立場の考えでなく、同窓として高所の判断・発言・行動をお願いしたい。

平成二十八年度の総会で会長に推挙されたことに御礼申し上げます。これまで以上にご指導ご支援を宜しくお願ひいたします。

この会は、高校三年間の絆に関東に生活基盤をもった方々による集まりで、創立からはや60年近く自主運営としてきましたが、時代的な考慮から昨年の本部総会で本部による集約的な体制をすることが決定しました。その事により改革をすることとなり、経費関係はもちろんのこと、目的、運営など全てをゼロベースから新たに再出発することにになります。そのため会員・役員の方々には、

一 信頼・信頼がなければ組織は成り立ちません。

二 役員の分別…この集まりは何の利も権もありません。全て皆様のご無理承知でボランティアの上に成り立ち又お願いされてのお役目ですが、役員になった以上は、少々のご無理と分別をもってお役目を担って頂きたい。

三 高所からの見解…社会的・会社などの地位や立場の考えでなく、同窓として高所の判断・発言・行動をお願いしたい。

いろいろな問題・事件災害が噴出してある今日、「天災」は止む負えない面もあるが、人為的災害は「心」の問題です。近代という科学的思想の「便利」は素晴らしいプレゼントを人類に与えました。反面、大前提である「生命」の問題にまで及ぶ事柄も多々ある今日です。人間の喪失感となり、今一度

「生きる」とは、そして「幸」とは何かを感じられる世界を、今までと違う可能性をイメージして見る必要に迫られている『今』、同窓の羽咋の「昨」がよき素材としてクロースアップするのでは。(昨は「山・川・海」の命の司)。

志賀・羽咋・中能登・宝達志水・かほくをクロスしているこの同窓は、単なるお飾りではなく、何か小さくてもよいキラリと「光る」ものをイメージし「創造」することを目的とし、「一歩を歩み出す勇氣と少しばかりのお金」で人生を謳歌する同窓会にしましょう。

たまには止まってください。そして空を、世界・日本・故郷・自分をみてくだささい。道が見えます。

「伝統と革新」

羽咋高校 校長 前田 一弘



羽咋高校関東同窓生の皆様には、平素より本校の教育活動に対し、ご支援とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

生徒たちは羽高魂を胸に、日々文武両道を実践しています。昨年度の卒業生は、名古屋、北海道、東北、神戸大学を始め、81名の生徒が国立公立大学に合格するなど、近年では最高の成果を上げてくれました。

また部活動においても、28年度高校総体では男女弓道、少林寺拳法、ボクシング、将棋の4つの部が全国大会への出場を果たし、2年生が中心の春の全国選抜大会にも、女子剣道、なぎなた、ボクシング、少林寺拳法の4つの部が出場を果たすなど、能登地区1番の成績を残しております。

先日開催されました吹奏楽部第53回定期演奏会も、地域の小中学生や羽咋市民吹奏楽団の賛助出演も得て、大盛況の内に終わることができました。(こ

の53回という数は、県内でも最も歴史の古いものです。)

さて、羽咋高校は言うまでもなく地区を代表する伝統校ですが、私は伝統校であるからこそ、日々革新を目指さなくてはならないと考えております。今年度より、志を持って地域で活躍する専門的人材の育成を目指し「医志教志未来塾」を立ち上げました。金沢大学附属病院長 蒲田敏文氏(本校 高28期卒)による講演会を皮

切りに、病院や中学校での実習等、実践的な活動を展開し、地域の医療や教育界に貢献していきたいと考えております。

少子高齢化が進む中、本校の置かれた状況も決して安穏とできるものではありません。今、教育現場は40年に一度の大きな変革期を迎えようとしておりますが、この変革の時期を、むしろチャンスととらえ、羽咋ブランドの価値を高め続けていきたいと考えておりますので、同窓会の皆様には今後ますますのご支援を賜りますようお願いいたします。

末筆ではございますが、関東同窓会の益々のご発展と皆様のご健勝を祈念いたしました。ご挨拶とさせていただきます。